

開催年月日 令和3年8月3日(火)
 質問者 日本共産党 真下 紀子 委員
 答 弁 者 感染症対策局長 佐賀井 祐一

質 問 内 容	答 弁 内 容
<p>一 まん延防止等重点措置について ただいまの報告を聞いて、確認させていただきたいことが2点ありますので、後ほどその他の質問で、新型コロナウイルス感染症対策に関し質問しますが、それとは別にまん延防止等重点措置の決定に関わってだけ質問させていただきます。 一日の感染者数が7月25日に1万人を超えて東京首都圏等で急拡大が止まっています。北海道も昨日まで6日連続で200人を越えています。第4波のときに専門家会議の指摘を受けて、重点措置ではなく5月15日から6月20日までの1ヶ月以上の緊急事態宣言に至ったのが北海道の状況です。 道が重点措置を要請した5月5日の7日間平均が208人に対して、8月1日はそれを超える224人となっていました。道の対策、これは緊急事態宣言レベルに達しているということだと思いませんか。感染状況が、デルタ株に置き換わったこともあって、これまでの感染状況とはかなり様相が変わってきています。これまでの道の対策の効果がなくなって、ピークアウトも見通せない状況ではないかと考えるんですね。そこで知事は最大の危機となり得ると発言をしているんですね。 保健福祉部として重点措置の要請に際して、専門的知見からこの重点措置で良いと進言したのか、もっと感染が危機的な状況にあると進言したのか、どのような進言をしたのかお聞きをしておきたいと思います。</p> <p>【指摘等】 保健福祉部の認識は、非常に重要な指摘をされた上で、その上で道が、知事が判断されたということを確認させていただきました。</p> <p>二 自宅療養について もう1点なんですが、直近に入ってきたものなので、今ここで伺いするのはどうかと思ったんですが、菅首相が突然重症者以外は自宅療養であるということを出しました。 自宅はあくまでも待機であって、療養という環境にないと考えておまして、何を指しているのか不明だなと私は感じました。 中等症の場合でも酸素吸入が必要な場合があります。酸素吸入をしている方も実際中等症といわれています。また病状の急変が誰にいつ起こるか分からないという状況で、自宅によって対応ができるのか不安がありますし、全く理解できません。 私は、菅首相がこういう発言をしている中でも、道は現実を見た対応をしていかなければならないと考えるんですけども、現時点でのお考えがあればお聞きしておきたいと思います。</p>	<p>【感染症対策局長】（調整班） 感染状況を見ました、道としての対策の必要性などについてのご質問かと思いますが、当時、私ども保健福祉部といたしましては、足下の感染状況が大変厳しい状況にあるという認識でございまして、まずは8月2日、今回まん延防止等重点措置になりましたが、この対策に関して、緊急事態宣言が東京・沖縄にもかかっていたございまして、その他地域でも重点措置がございまして、そういった地域と比べましても非常に厳しい状況は変わらないということ、知事、副知事、関係部長がはいった会議においても、実効性ある対策が特に早急に必要だということをお話しを上げて、それによって、爆発的な感染拡大を抑えて、全道へのまん延を防ぐということが必要であると話をしてきたところであります。</p> <p>【感染症対策局長】（調整班） 療養の考え方などのご質問かと思えます。道といたしまして、報道があったことは承知しておりますけれど、我々としては、これまで限られた医療資源を重症者の方、重症リスクの高い方へ適切に提供することが必要と考えておまして、医師が国の通知のもと、患者の方々の個々の症状に基づき、それぞれ判断した上で、入院が必要な患者に勧告を行うことが大前提と思っております。 また、入院を要さないとされた軽症の方、無症状の方については、これまでも宿泊療養あるいは必要に応じて自宅療養という形態で療養していただいております。 先の感染拡大時ですが、札幌市や江別、千歳などその近郊の地域におきまして、宿泊療養に並行して我々として自宅療養を進めてきてまいりましたが、現在は全道全ての地域で同じ考え方に基づき、患者の状態に応じ自宅療養を支援する体制の構築に努めているところでございます。 先ほど申し上げましたが、今般報じられている国の方針でございまして、正式な通知がきておりませんが、我々としても報道によるところしかありませんが、今週内にも示されるようなことも書いておりましたので、国の動向に関しては、引き続き注視してまいりたいと考えております。</p>